

高校公民プリント（過去問類似）

日本の思想 No.6

名前

得点

/10

問1 世界の始まりにおいて、超越的な唯一神による天地創造が行われるのではなく、天と地が分かれる混沌の中から自然発生的に神々が現れるという宇宙観を持ち、のちの江戸時代に本居宣長らによる国学の研究対象ともなった、日本現存最古の歴史書は何か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 風土記 2. 万葉集 3. 古事記 4. 懐風藻

問2 江戸初期の儒学者である林羅山は、幕府の正学となった朱子学の立場から、天と地のように上下の別がある自然界の秩序と同様に、人間社会における身分秩序も不変の理に基づいていると主張し、封建的な支配体制を正当化した。このような、自然の秩序と社会の身分秩序を同一視する思想を何というか。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. 天人合一の説 2. 知行合一の説 3. 上下定分の理 4. 格物致知の説

問3 平安初期に唐から密教を伝えた空海は、宇宙の真理そのものである本尊と修行者が一体化することにより、現世の肉体のままて究極の悟りを開いて仏になることができるといふ教えを説いた。この思想を何というか。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. 専修念仏 2. 只管打坐 3. 即身成仏 4. 悪人正機

問4 近代日本の思想家である和辻哲郎は、日本神話における神々のあり方を分析した。彼は、日本神話には唯一絶対の究極神は存在しないと、最も尊貴な神として位置づけられる存在であっても、みずから他の神を祀るといふ主客の二重性をもった存在として描かれていると指摘した。この、和辻が主客の二重性をもつと指摘した、日本神話において最も尊貴とされる神は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. オオナムチ 2. サルタヒコ 3. アマテラス 4. カミムスビ

問5 白樺派を代表する作家・思想家である武者小路実篤は、個人の生命や個性の尊重を重視し、各自が自己の人間性を最大限に成長させることが人類全体の発展に貢献すると考えた。彼がその理想的な共同生活を実践する場として、1918年に宮崎県に創設した共同体の名称は何か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 新婦人協会 2. 新しき村 3. 日本共産党 4. 全国水平社

問6 知識や認識といった心の内面と、実際の行動は切り離すことができず、真の知識は必ず実践を伴うものであるとする、日本の陽明学者や幕末の志士たちの行動規範に大きな影響を与えた思想上の命題を何というか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 修己治人 2. 知行先後 3. 知行合一 4. 格物致知

問7 人間は他の生命を奪わなければ生存できない根源的な罪悪を抱えた存在であると深く自覚し、自力による修行を否定して、阿彌陀仏の慈悲による絶対的な救済を信じるべきだと説いた、浄土真宗の開祖は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 日蓮 2. 道元 3. 法然 4. 親鸞

問8 主観と客観が分かれる前の「純粹経験」を哲学の出発点とし、のちに東洋的な「無」の思想を包摂した独自の思索を展開した。すべての意識や実在の根底にあり、対立する多様な事象が矛盾を内包したまま統一される根源的な領域を「場所」として捉える哲学を提唱した、近代日本を代表する思想家は誰か。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 西田幾多郎 2. 和辻哲郎 3. 井上哲次郎 4. 波多野精一

問9 江戸時代中期、朱子学の解釈を批判し、古代中国の言葉を当時の意味で直接理解しようとする学問を提唱した儒学者がいる。彼は著書『弁道』において、社会を治めるための具体的な制度や礼楽である「先王の道」を明らかにしたが、この人物は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. 伊藤仁斎 2. 林羅山 3. 中江藤樹 4. 荻生徂徠

問10 人間を単なる孤立した「個人」としてではなく、他者との関係性において存在する「じんかん（人間）」として捉え、個人が社会に埋没することなく、自己を否定しながら共同体とのつながりの中で生きるという動的な関係性を「間柄的存在」と呼んだ、大正・昭和期の日本の思想家は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 和辻哲郎 2. 内村鑑三 3. 吉野作造 4. 中江兆民

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 3 古事記	『古事記』の冒頭に描かれる天地開闢では、絶対的な唯一神が世界を創造するのではなく、天地が分かれる中で自然発生的に神々が現れる。このような多神教的・自然発生的な宇宙観は、ギリシア神話などとも共通する特徴であり、江戸時代には本居宣長が『古事記伝』を著してその思想的意義を追究した。
問2	答え 3 上下定分の理	林羅山は、宇宙の根本原理である「理」が自然界だけでなく人間社会にも貴かれていると考えた。天が高く地が低いように、君臣や父子などの身分秩序（上下の別）も自然の理に従った不変のものであるとするこの思想は、江戸幕府の封建的支配を正当化する理論的支柱となった。
問3	答え 3 即身成仏	空海が体系化した真言密教の根本思想である。凡夫がその肉体のまま、宇宙の真理である大日如来と一体化し、究極の悟りを開いて仏になることができると説く。これに対して、従来の仏教では、気の遠くなるような長い時間の修行（歴劫修行）を経て、来世以降にようやく成仏できると考えられていた。
問4	答え 3 アマテラス	和辻哲郎は、日本神話における神々の関係性を分析し、絶対的な超越者が存在しないことを指摘した。皇祖神であり最も尊貴な神とされるこの神であっても、自ら高天原の神々を祀るという祭祀者としての側面（主客の二重性）を持っている。
問5	答え 2 新しき村	武者小路実篤は、階級対立や搾取のない、誰もが自己の個性を發揮して人間らしく生きられる理想社会の実現を目指した。その実践の場として、1918年に宮崎県児湯郡木城村に『新しき村』を創設し、自らも移住して共同生活を送った。その後、ダム建設に伴い、埼玉県にも新たな村が建設された。
問6	答え 3 知行合一	陽明学の根本的な考え方であり、心の中の道徳的自覚（知）と具体的な実践（行）を一体のものと捉える。日本においては、中江藤樹がこの考え方を日本陽明学の祖として広め、のちに大塩の乱を起こした大塩平八郎や、幕末の志士たちに強い実践的動機を与えることとなった。
問7	答え 4 親鸞	人間は生存のために他の生命を奪わざるを得ない罪深い存在であるという自覚（悪人自覚）に基づき、自力ではなく阿弥陀仏の本願にすべてを委ねる他力救済を説いた。この思想はのちに『歎異抄』などにまとめられ、悪人正機説として展開された。
問8	答え 1 西田幾多郎	主客未分の「純粹経験」を出発点とした西田幾多郎は、のちに東洋的な「無」の概念を取り入れた「場所の論理」を構築した。彼は、すべての実在の根底にある「無の場所」において、対立する多様な事物が矛盾を維持したまま統合されていると論じ、西洋哲学とは異なる独自の日本哲学を確立した。
問9	答え 4 荻生徂徠	古代の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱し、政治や制度による社会秩序の安定（経世済民）を重視した儒学者は荻生徂徠である。彼は『弁道』や『政談』などの著作を残し、徳川吉宗の政治顧問としても活躍した。朱子学の道徳主義を批判し、聖人が定めた制度である「先王の道」を重んじる彼の思想は、のちの経世論に大きな影響を与えた。
問10	答え 1 和辻哲郎	人間（じんかん）を個人と社会の二重性において捉え、他者との「間柄」において存在する「間柄的存在」として規定した。この思想は『人間の学としての倫理学』などで展開され、西洋の個人主義とは異なる日本独自の倫理観を基礎づけようとした。

高校公民プリント（過去問類似）

日本の思想 No.7

名前

得点

/10

問1 浄土教の根本経典に説かれ、ある仏がすべての衆生を救うために立てたとされる四十八の誓願を何というか。この誓願では、その仏を信じて名号を称える者を一人残らず極楽浄土へ往生させることが約束されている。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 阿弥陀仏の本願 2. 阿弥陀仏の名号 3. 阿弥陀仏の浄土 4. 阿弥陀仏の誓願

問2 明治から昭和期にかけて活躍した博物学者の南方熊楠は、神社祭祀反対運動を指導したことで知られる。彼が、宇宙のあらゆる事象や道理が単一の因果関係にとどまらず、縦横無尽につながり合っている世界のあり方を表現した独自の概念図を何というか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 南方曼荼羅 2. 大日本主義 3. 天皇機関説 4. 小日本主義

問3 平安時代中期、貴族中心であった仏教を庶民へと広める先駆者となった人物がいる。彼は京都の市中（市井）に入って人々に念仏を勧め、さらに道路や井戸の整備、無縁仏の火葬などの社会事業を行ったことから、「市聖」と呼ばれた。この人物として最も適当なものを答えよ。（2020年 全国公立入試 類似）

1. 空也 2. 良忍 3. 源信 4. 法然

問4 明治期の思想家・文学者である夏目漱石は、日本の近代化について、西洋からの外発的な影響によって急激に進められたため、自己の内面から湧き出る内発的な発展を欠いていると批判した。このような、中身の伴わない日本の近代化のあり方を、彼はどのような言葉で表現したか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 皮相上滑りの開化 2. 外発的開化の受容 3. 内発的開化の進展 4. 自己本位の生き方

問5 平安中期の僧である源信は、著書『往生要集』において、阿弥陀仏や極楽浄土の姿を心の中で克明に思い浮かべる修行方法を重視した。のちに法然らが広めた、口頭で仏の名を唱える方法とは異なり、心の中での観想を主とするこの修行方法を何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 観相念仏 2. 称名念仏 3. 口称念仏 4. 専修念仏

問6 戦後の日本において、近代社会を支える自立的な主体性の確立を思想的課題として掲げた政治学者は、日本の思想史において中核となる伝統が形成されず、外来の思想が次々と流入しては並存している状況を批判した。このような歴史的な一貫性や体系性を欠いた思想のあり方を「雑居」と表現し、主体的な知的伝統の欠如を指摘した人物は誰か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. 大塚久雄 2. 鶴見俊輔 3. 吉本隆明 4. 丸山真男

問7 明治期において、自由民権運動などの現実政治に挫折した後、文学の世界に転じた人物である。雑誌『文学界』を創刊し、現実の「実世界」に対して、自己の「内部生命」の要求や精神の自由を重んじる「想世界」を追求した、近代日本におけるロマン主義の先駆者となった詩人・評論家は誰か。（2022年 全国公立入試 類似）

1. 北村透谷 2. 坪内逍遙 3. 国木田独歩 4. 二葉亭四迷

問8 キリスト教思想家の内村鑑三が、日清戦争を「義戦」として肯定した立場から一転し、日露戦争の開戦前夜にキリスト教の人道主義的立場から一貫して戦争に反対するために唱えた主張を何というか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 主戦論 2. 非戦論 3. 義戦論 4. 講和論

問9 古代の日本人は、自然を恵みをもたらすものであると同時に、時に猛威を振るう脅威としても捉えていた。このような自然に対する畏怖から、神には二つの側面があると考えられた。このうち、天変地異や疫病などの災いをもたらす、神の荒々しく破壊的な側面を表す概念を何というか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 荒魂 2. 奇魂 3. 和魂 4. 幸魂

問10 主客未分の「純粹経験」を唯一の現実とし、そこから独自の思索を展開した日本の哲学者は、人間が日常の中で経験する悩みや行き詰まりといった「人生の悲哀」を、宗教や哲学の問いの根底にあるものと位置づけた。この人物は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 和辻哲郎 2. 井上哲次郎 3. 西田幾多郎 4. 清沢満之

答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 1 阿弥陀仏の本願	浄土教思想において、阿弥陀仏は『無量寿経』に記された四十八の誓願（本願）を立てたとされる。その中心は、阿弥陀仏を信じてその名号（南無阿弥陀仏）をひたむきに称えるすべての衆生を、一人残らず極楽浄土へ往生させるという救済の約束である。法然や親鸞などの鎌倉仏教の思想家たちに決定的な影響を与えた。
問2	答え 1 南方曼荼羅	南方熊楠は、エコロジー思想の先駆者としても評価される博物学者・民俗学者である。彼は、宇宙の森羅万象が複雑に絡み合い、つながり合っている様子を、仏教の密教思想にヒントを得て図示し、世界のあり方を説明しようとした。この図は彼の名をとって南方曼荼羅と呼ばれ、近代科学の限界を超える有機的な世界観を示したものとして注目されている。
問3	答え 1 空也	平安時代中期に活躍したこの人物は、国家や貴族のための仏教から離れ、市井の庶民に対して念仏を広めた。また、実生活における社会事業（道路や井戸の整備、無縁の死骸の火葬など）を精力的に行ったことから「市聖（いちのひじり）」と称され、後の鎌倉浄土教の先駆的な役割を果たした。一遍（捨聖）や源信（往生要集の著者）などと区別することが重要である。
問4	答え 1 皮相上滑りの開化	講演「現代日本の開化」において、西洋の開化が「内発的」であるのに対し、日本の開化は「外発的」であり、急激な近代化のなかで自己を見失っている状態をこのように表現した。
問5	答え 1 観相念仏	源信は『往生要集』において、極楽往生を遂げるための具体的な方法として、阿弥陀仏の姿や極楽浄土の情景を心の中で鮮明に思い描く修行を重視した。これは、のちに鎌倉仏教において法然が提唱した、口頭で「南無阿弥陀仏」と唱える口称念仏とは区別される。
問6	答え 4 丸山真男	丸山真男は、日本の思想史において過去の思想を主体的に止揚する知的伝統が欠如していることを批判した。彼は、外来の思想が次々と入ってきては並存する「雑居」状態にあると指摘し、近代的な自立した個人の主体性を確立することの重要性を説いた。
問7	答え 1 北村透谷	自由民権運動の挫折後、キリスト教の影響を受けつつ、内面的な精神の自由を追求した。彼は、功利的な現実社会（実世界）に対抗して、人間の内なる精神世界（想世界）や「内部生命」の尊厳を主張し、雑誌『文学界』を通じてロマン主義文学の先駆的な役割を果たした。
問8	答え 2 非戦論	内村鑑三は、日清戦争の経験を経て戦争の悲惨さと国家の利己主義を痛感し、日露戦争に際してはキリスト教の信仰に基づき、いかなる戦争も悪であるとする絶対的な立場を主張しました。この主張は、幸徳秋水や堺川らの社会主義的な立場からの主張とともに、当時の主戦論に対抗するものとなりました。
問9	答え 1 荒魂	古代日本の神観念において、神は作物の豊穰などの恵みをもたらす「和魂」としての側面と、自然の脅威や災害などの災いをもたらす「荒魂」としての側面の両面（神意のあらわれ）を持つと信じられていた。荒々しく猛々しい神の働きを「荒魂」と呼び、これを鎮めるために祭祀が行われた。
問10	答え 3 西田幾多郎	主客未分の「純粹経験」を哲学の出発点とし、のちに「場所の論理」などを展開した哲学者は西田幾多郎である。彼は、人間が生きる中で直面する悩みや行き詰まり（人生の悲哀）を、宗教や哲学の問いの根源に据えた。これは、自己の存在を深く見つめ直す自問自答の営みであり、他者への問いかけと同様に、自己自身に対する内的な問いかけであるとされる。

高校公民プリント (過去問類似)

日本の思想 No.8

名前

得点

/10

問1 元武士の経歴を持つ江戸時代初期の禅僧で、それぞれの身分に与えられた世俗の生業に励むこと自体が仏道修行であると言き、商人の営利活動も天から与えられた役目として肯定した人物は誰か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 山鹿素行 2. 中江藤樹 3. 白隠慧鶴 4. 鈴木正三

問2 日本の伝統的な生活文化や宗教的慣習において、初詣や節分、お彼岸などのように、毎年特定の時期や季節に繰り返して行われる慣習や行事の総称を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 年中行事 2. 伝統芸能 3. 冠婚葬祭 4. 通過儀礼

問3 平安末期から鎌倉初期にかけて、俗世を離れて各地を遍歴し、自然のなかに身を置きながら人生の無常を和歌に詠み込んだ歌人は誰か。その私家集には『山家集』があり、桜や月を愛し、春の満月の頃に桜の下で入寂することを願う歌などが収められている。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 西行 2. 定家 3. 兼好 4. 慈円

問4 江戸時代の町人思想において、井原西鶴は、現世をはかないものとして否定的に捉える中世的な「憂き世」の観念を転換させた。彼が、人々が日々の生活の中で富や快楽を追求するありのままの姿を肯定的に捉え、現世の日常世界を表現した言葉は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 仮の世 2. 憂き世 3. 浮き世 4. 後の世

問5 江戸初期の儒学者が徳川将軍家に仕えて講じ、幕府の官学的な地位を占めるにいたった学派は何か。この学派は、自己を慎み心を正す「持敬」を重視し、宇宙の理法と人間の道徳の合一を説いて、幕藩体制の身分秩序を正当化する理論的支柱となった。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 朱子学 2. 陽明学 3. 護園学 4. 古義学

問6 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の論理を用いながら東洋的な思索を体系化しようと試みた。彼は著書『善の研究』において、主観と客観が分かれる前の直接的な意識状態を重視し、のちに主客を包み込む根底としての「場所」や、万物を生み出す根源としての「絶対無」の思想へと発展させた。この哲学者は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 和辻哲郎 2. 内村鑑三 3. 西田幾多郎 4. 吉野作造

問7 敗戦直後の日本において、従来の道徳や権威が崩壊した状況下で、人間は一度徹底的に「墮ちきる (墮落する)」ことが必要であり、そのありのままの自分を出発点として、自らの手で新たな価値基準を創り出すべきだと説いた、『白痴』などの作品で知られる無頼派の作家は誰か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 川端康成 2. 小林秀雄 3. 横光利一 4. 坂口安吾

問8 幕末の日本において、天道にかなう生き方とは、功名や利欲を離れて純粹な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことであると主張した思想家がいた。彼は、主君に忠を尽くす勤皇の精神がこの「誠」の実践を通じて天道に通じると捉え、のちの尊王攘夷運動に強い影響を与えた。松下村塾を主宰し、多くの門下生を育てたこの人物は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 橋本左内 2. 吉田松陰 3. 横井小楠 4. 佐久間象山

問9 明治中期、井上馨外相らによる極端な欧化主義政策に対して、日本の伝統や文化の独自性を重視する立場から批判が起こった。志賀重昂らとともに政教社を設立し、雑誌『日本人』を発行して、西洋文明の長所を取り入れつつも日本独自の個性を保つべきだとする国粹主義 (国粹保存主義) を唱えた思想家は誰か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 志賀重昂 2. 徳富蘇峰 3. 三宅雪嶺 4. 陸羯南

問10 阿弥陀仏の救いを信じ、経典の読解や厳しい修行などの他の行いを一切交えず、ただひたすらに「南無阿弥陀仏」と唱えることのみによって極楽往生が遂げられるとする、法然が提唱した仏教思想を何というか。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 選択本願 2. 悪人正機 3. 只管打坐 4. 専修念佛

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 4 鈴木正三	「世法即仏法」を唱え、出家して修行するだけでなく、農業や商業などの世俗の職業（生業）に専念することがそのまま仏道修行（仏行）になると説いた。商人の営利活動も社会に貢献する正当な役目として肯定し、正直に励むべきだと主張したことで知られる。
問2	答え 1 年中行事	毎年決まった時期や季節に繰り返される初詣や節分、お彼岸などは、宗教的な起源を持ちながらも、人々の生活に深く定着した慣習である。これに対して、誕生、成人、結婚、葬儀など、個人の生涯の節目に行われる儀礼は「通過儀礼（イニシエーション）」と呼ばれ、区別される。
問3	答え 1 西行	平安末期から鎌倉初期にかけて活躍したこの人物は、北面の武士としての地位を捨てて出家し、各地を遍歴しながら自然と一体となる生き方を追求した。桜や月といった自然の風景に無常の思いを託した和歌を数多く残し、その歌風は後世の松尾芭蕉などにも大きな影響を与えた。彼の歌は私家集である『山家集』にまとめられている。
問4	答え 3 浮き世	井原西鶴は、現世を否定的に捉える中世的な「憂き世」観を排し、現世を肯定的な「浮き世」として捉え直した。眼前の日常世界の中で、人々が日々様々な快樂や富を追求する姿こそが、人間のありのままの生の真実であるとし、町人たちのリアルな生き様を肯定的に描いた。
問5	答え 1 朱子学	林羅山が奉じたこの学派は、宋代に大成された儒学一派である。自己を慎み律する「持敬（居敬）」や、事物の理を極める「窮理」を実践することで、天理と人倫が一致すると説き、厳格な身分秩序や徳徳を重んじたため、幕府の統治体制に適合し、官学的な地位を得た。
問6	答え 3 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が未分化な状態である「純粹経験」を出発点とし、のちにそれを発展させて「場所の論理」や「絶対無」の哲学を構築した。これは西洋の近代哲学（主客二元論など）を乗り越え、東洋的な「無」の思想を論理化しようとする試みであった。
問7	答え 4 坂口安吾	敗戦によって従来の価値基準や権威が崩壊した状況下で、人間は一度徹底的に「墮ちきる（墮落する）」ことが必要であると主張した。人間は墮ちきった状態にとどまり続けるほど強くないため、そのありのままの自分を出発点として、自らの手で新たな価値基準や権威を創り出すべきだと説いた。この思想は、戦後日本の既成の道徳や権威を否定し、人間の本質を見つめ直すものとして大きな影響を与えた。
問8	答え 2 吉田松陰	吉田松陰は、幕末期において独自の天道観を展開した。彼は、功名や利欲を離れて純粋な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことこそが天道にかなう生き方であるとした。そして、主君に忠を尽くす「勤皇」の精神は、この「誠」を尽くす実践を通じて天道に通じるものであると捉えた。彼の思想は松下村塾を通じて高杉晋作や伊藤博文などの門下生に受け継がれ、幕末の尊王攘夷運動の精神的支柱となった。
問9	答え 3 三宅雪嶺	明治政府が進めた鹿鳴館に象徴される極端な欧化政策に対し、日本の伝統文化や国民的個性を維持しながら西洋の近代文明を主体的に受容すべきであるとする国粹主義（国粹保存主義）が台頭した。この立場を代表する人物が、志賀重昂らとともに政教社を結成し、雑誌『日本人』を通じて言論活動を展開した。なお、教育勅語の道徳を重視して国民道徳を説いたのは井上哲次郎、人格主義の立場から東西の古典を摂取したのは阿部次郎、超国家主義の立場から国家の改造を主張したのは北一輝などである。
問10	答え 4 専修念仏	末法の世において、智慧も徳もない凡夫（民衆）が救われるためには、阿弥陀仏の本願にすべてを委ねる必要がある。法然は、名号を唱えること以外の修行を排除し、念仏のみに専念することを往生の唯一の正行（正しい行い）とした。

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 3 空也	平安時代中期には、国家の加護を背景とした学問仏教や貴族向けの仏教が主流であったが、一方で民間への布教に努める僧侶も現れた。「市聖」と呼ばれたこの人物は、諸国を巡って庶民に阿弥陀信仰（浄土教の信仰）を説き、口称念仏を広めた。また、単に教義を説くだけでなく、道路の開削や井戸の掘削、行き倒れた死者の火葬といった社会事業を実践することで、現世の苦難にあえぐ人々の救済に尽力した。
問2	答え 1 西田幾多郎	主客未分の「純粹経験」を出発点とした西田幾多郎は、のちに東洋的な「無」の概念を取り入れた「場所の論理」を構築した。彼は、すべての実在の根底にある「無の場所」において、対立する多様な事物が矛盾を維持したまま統合されていると論じ、西洋哲学とは異なる独自の日本哲学を確立した。
問3	答え 2 吉野源三郎	『君たちはどう生きるか』の著者である吉野源三郎は、人間が自らの過ちを悔いる（悔恨）という経験を通じて、自らの行動を主体的に決定する自由な存在であることを自覚できると主張した。これは、他律的な生き方から脱し、自律的・主体的に生きることの尊さを説いたものである。
問4	答え 4 石田梅岩	江戸時代中期、商業活動に対する否定的な見方が強かった中で、商人の営利活動を肯定する思想が生まれた。この思想家は、商人の利益を武士の俸禄と同等の正当な対価と位置づけ、商業の社会的意義を認めた。ただし、単なる私利私欲の追求ではなく、「正直」と「儉約」という道徳規範を重視し、他者との共生を図る公正な取引を説いた。この教えは「石門心学」として、当時の町人層を中心に広く普及した。
問5	答え 2 専修念仏	法然は、末法の時代には自力で悟りを開くことは困難であるとし、阿弥陀仏の救いを信じて「南無阿弥陀仏」と口に唱えること（口称念仏）だけを専ら行うべきであると主張した。これを専修念仏と呼ぶ。
問6	答え 2 大和本草	中国の本草学を日本の実情に合わせて受容し、実際に観察した知見に基づいて本書を著した。これは日本の博物学の発展に大きく貢献した。益軒のもう一つの代表作である日用道徳・養生書の『養生訓』と区別して理解する必要がある。
問7	答え 1 八百万の神	日本の伝統的な信仰である神道では、自然のあらゆる事物や現象に神が宿ると考えるアニミズム的な世界観が根底にある。このため、特定の唯一絶対の神を信仰するのではなく、無数の神々の存在を認める観念が生まれた。このような多神教的な土壌が、後に伝来した仏教などの外来の信仰を拒絶せず、自らの生活様式や儀礼の中に柔軟に受け入れる「複教宗教の受容」という日本特有の宗教的態度の形成につながっている。
問8	答え 1 古義学	伊藤仁斎は、後世の注釈（特に朱子学）を排し、『論語』などの原典に直接立ち返ってその本来の意味（古義）を明らかにしようとする古義学（堀川学派）を提唱した。彼は、日常の人間関係における「思いやり」としての「仁」を重視した。
問9	答え 3 北村透谷	自由民権運動の挫折を経験したのち、雑誌『文学界』の創刊に関わった。政治や実業などの「実世界」に対して、精神的・内面的な「想世界」を重視し、そこにおける「内部生命」の充実を説いた。また、キリスト教の影響を受け、精神的な結びつきとしての「恋愛」を、自己を解放し高めるための重要な契機として位置づけた。
問10	答え 1 自然世	安藤昌益は、すべての人間が自ら労働（直耕）して衣食住を自給する平等な社会を「自然世」と呼んで理想化した。これに対し、自ら耕さずに農民の生産物に寄生して暮らす武士などの支配階級が存在する当時の封建社会を「法世」と呼び、厳しく批判した。

高校公民プリント（過去問類似）

日本の思想 No.10

名前

得点

/10

問1 明治期の思想家である西村茂樹が著し、急速な欧化主義による道徳の退廃を批判し、儒教と西洋哲学の精髓が一致する「天地の真理」を基礎に据えることで、日本独自の国民道徳を確立すべきだと主張した書物は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 立憲政体略 2. 将来之日本 3. 日本道徳論 4. 西国立志編

問2 商業活動を営む人々の社会的役割を模索し、商人の利益追求を正当なものとして肯定する一方で、正直と儉約を重んじる独自の道徳・倫理を唱えて、よりよい社会の実現を目指した江戸中期の思想家は誰か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. 貝原益軒 2. 安藤昌益 3. 石田梅岩 4. 中江藤樹

問3 神仏習合の進展に伴い、日本の神々は、本来の姿である仏が人々を救うために仮の姿となって現れたものであるとする考え方が現れた。この、平安時代中期以降に広く浸透した思想を何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 神本仏迹説 2. 本地垂迹説 3. 山王一実説 4. 両部神道説

問4 修行と悟りは一体不可分であるとする思想を唱え、ただひたすらに坐禅を行う只管打坐を説いて、越前国に永平寺を建立した鎌倉仏教の僧侶は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 親鸞 2. 栄西 3. 法然 4. 道元

問5 阿弥陀仏が立てた四十八の誓願が説かれており、その名号を称える衆生を一人残らず極楽浄土へ往生させるという救済の約束が記されている、浄土教において最も重視される経典は何か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 教行信証 2. 往生要集 3. 無量寿経 4. 阿弥陀経

問6 鎌倉仏教の展開において、阿弥陀仏による救済は人間の信・不信を超越していると考え、名号そのものに絶対的な救済力があると主張した人物がいる。全国を遊行して「南無阿弥陀仏」と記した念仏札を配り、踊り念仏を通じて、信心の起きない者であっても往生できるという徹底した他力思想を説いた、この時宗の開祖は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 道元 2. 法然 3. 一遍 4. 親鸞

問7 江戸時代の大坂の町人学者で、仏教や儒教などの思想が歴史的に形成されてきた過程を批判的に検討した人物は誰か。彼は、後世の思想家が先人の説の上に新たな主張を積み重ねていくことで思想が発展・変化するという歴史観を提示し、仏教経典のすべてが釈迦自身の言葉ではないと主張した。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 富永仲基 2. 山片蟠桃 3. 手島堵庵 4. 石田梅岩

問8 空海が体系化した真言密教において、宇宙の真理そのものであり、修行者が一体化を目指すべきとされる、密教における中心的な本尊を何というか。（2010年 全国公立入試 類似）

1. 薬師如来 2. 大日如来 3. 阿弥陀如来 4. 釈迦如来

問9 近代日本の思想において、西洋文明の受容をめぐり、既存の知識や習慣を疑って真実を追究する「懐疑の精神」こそが文明の進歩の原動力であると主張した。その一方で、自国の伝統を深く考えずに捨て去り、西洋の事物を盲信する軽薄な態度を戒め、主体的・合理的な判断力をもつ「独立自尊」の個人を育成しようとした、著書『文明論之概略』で知られる思想家は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 津田真道 2. 中村正直 3. 福沢諭吉 4. 中江兆民

問10 折口信夫は、日本の神の原型について、海の彼方にある常世国から定期的に村々を訪れ、人々に祝福や豊穡をもたらす異郷の神（靈的存在）であると考えた。この、折口の民俗学において重要な位置を占める、来訪神の概念を何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. うぶすな 2. ことだま 3. よりしろ 4. まればと

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 3 日本道徳論	西村茂樹は、明治政府の急進的な欧化政策がもたらした道徳的混乱を改善するため、伝統的な儒教道徳の再評価を試みた。本書において彼は、儒教と西洋哲学の精髓が一致する共通の「天地の真理」を日本の道徳の基礎とし、その上で様々な教えを取捨選択して採用すべきであると主張した。
問2	答え 3 石田梅岩	石田梅岩は、士農工商の身分秩序の中で商人の存在意義を問い直し、商人の利益を「天下の御用の報い」として肯定した。彼は、自己の心を磨き、正直と儉約を実践することによって、誰もがよりよい生を送り、調和のとれた社会を実現できると説く「心学（石門心学）」を創始した。
問3	答え 2 本地垂迹説	神仏習合の思想的展開において、仏や菩薩を「本地（本来の姿）」とし、日本の神々を「垂迹（仮の現れ）」とする本地垂迹説が唱えられた。これに対し、鎌倉時代末期から室町時代にかけては、神を主、仏を従とする反本地垂迹説（伊勢神道など）も現れた。
問4	答え 4 道元	道元は宋に渡って如浄に師事し、帰国後に曹洞宗を開いた。彼は、修行（坐禅）と悟りは別のものではなく、修行すること自体がすでに悟りの現れであるとする修証一等の思想を説き、越前に永平寺を開いて弟子の養成に努めた。
問5	答え 3 無量寿経	浄土教の根本聖典である浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）のうち、阿弥陀仏がかつて法蔵菩薩であった修行時代に立てた四十八の誓願（本願）を説いているのが『無量寿経』である。この経典に説かれる本願に基づき、名号を称えることで極楽往生ができるという専修念仏の思想が展開した。
問6	答え 3 一遍	阿弥陀仏による救済は人間の信心の有無を超越していると考え、ただ「南無阿弥陀仏」と唱えることで誰もが往生できると説いたのは、時宗の開祖である一遍である。彼は全国を遍歴（遊行）して念仏札を配る「賦算（ふさん）」を行い、踊り念仏を通じて庶民に他力念仏の思想を広めた。これに対し、法然は専修念仏を唱え、親鸞は絶対他力や悪人正機説を唱えて信心の重要性を強調した点が異なる。
問7	答え 1 富永仲基	仏教経典が後世の人々の解釈を付け加える（加上）ことによって成立したと考え、経典のすべてが釈迦自身の言葉ではないと主張した大坂の町人学者は富永仲基である。彼は『出定後語』などを著し、仏教や儒教、神道を歴史的・批判的な視点から研究した。
問8	答え 2 大日如来	真言密教では、歴史上の人物としての釈迦ではなく、宇宙の真理そのものであるこの本尊を崇拝する。修行者が身体・言葉・心の働きを仏に合わせる修行（三密加持）を行うことで、この本尊と一体化し、現世の肉体のままに仏になることができる（即身成仏）とされた。
問9	答え 3 福沢諭吉	西洋文明の進歩の原動力を、既存の知識を疑い真実を追究する懐疑の精神に見いだした。日本人もこの精神を学ぶべきであると主張する一方で、自国の伝統や習慣を深く考えずに軽々しく捨て去り、西洋の事物を盲目的に受け入れるだけの軽薄な態度を厳しく批判した。彼は「独立自尊」を説き、個人の独立が国の独立につながると主張した。
問10	答え 4 まれびと	折口信夫は、日本の神の起源を、海の彼方の常世国から定期的に来訪して人々に祝福を与える「まれびと（客人）」に見出した。これは、死者の魂が近くの山などに留まって祖霊になるとした柳田国男の他界観とは異なる、水平的な他界観（常世国）に基づいている。